

## 第7回尖石縄文文化賞

受賞者：池谷信之

尖石縄文文化賞条例にもとづく、同賞の選考委員会は、矢崎和広茅野市長の諮問を受け、委員5名の出席の下に、8月29日、尖石縄文考古館で行われた。

今回、選考・審査の対象となったのは、自・他薦を含めて、個人・団体延べ17件であった。候補者の内訳は、30歳代から60歳代におよび、研究者としての所属機関や、その研究歴など多彩で、また寄せられた「受賞の対象となる研究及び活動の業績」についても、宮坂英弑が尖石遺跡の発掘や研究をつうじてめざした、縄文時代の歴史の本質に迫る、すぐれた研究と活動を示すものであった。このことは、本年第7回目を迎えた本賞の趣旨が、広く学界等一般に周知された結果として、誠に喜ばしいことである。

こうしたすぐれた候補者を得て、選考委員会では慎重な審議の結果、第7回尖石縄文文化賞の受賞者として、池谷信之氏（静岡県）を、全会一致で推薦することに決定した。

同氏は明治大学大学院文学研究科博士前期課程修了後、静岡県沼津市の学芸員として、愛鷹山麓の旧石器時代・縄文時代の集落の発掘調査と整理作業に従事する傍ら、その研究成果を学会誌に精力的に発表している。

なかでも、黒曜石の研究から縄文人の行動や社会構造を明らかにしようと試み、蛍光X線分析装置を用い、遺跡出土黒曜石の全点調査を行い、大きな成果を上げている。その成果は、昨年発行された著書『黒潮を渡った黒曜石―見高段間遺跡』や今年度刊行の「環中部高地南東域における黒曜石流通と原産地開発」などに発表され、高く評価されている。

同氏の研究は、縄文人の行動や社会生活を明らかにしようとした宮坂英弑の研究を継承・発展させたものであり、茅野市が本賞を制定した意義にそった、まことにふさわしい受賞者である。

2006年8月29日

宮坂英弑記念尖石縄文文化賞選考委員会

委員長 戸沢充則



第7回受賞者 池谷信之氏